



六中だより

～自主・勤勉・共生～

11月号 No.7
平成30年11月16日発行
港区立六本木中学校
校長 石原 嘉人

開校20周年記念式典・祝う会



11月10日、開校20周年記念式典・祝う会を行いました。

当日は、記念式典に116名、祝う会に167名のご臨席を賜り、滞りなく終えることができました。

我々は、この記念式典・祝う会を「現在の六本木中学校を披露する場」と捉え、生徒・教職員・保護者一丸となって取り組み、大きな達成感、そして充実感を味わうことができました。

記念式典に臨むにあたっては、10年に一度となる記念式典の意義を生徒に説明し、式に臨ませました。生徒たちはその意義をしっかりと理解し、緊張感をもって、式に臨んでくれました。

今回の記念式典においては、「式の流れを理解し、自ら考えて行動する」ことを目標に、できる限り号令はかけないで進行させようと試みま

結果は、100点満点！生徒たちは高い集中力をもって式に臨み、見事に行動してくれました。「号令なしで起立し、号令なしで礼をする」というのは静寂を強調する効果があります。とても厳粛な雰囲気です。式を進行させることができました。生徒たちは、号令をかけられて動くのではなく、起立すべきところで立ち、礼すべきタイミングで礼をすることができました。

生徒たちの合唱はさらに素晴らしく、こちらの出来は120点！！合唱発表会よりも完成度高く披露することができたのではないのでしょうか。「ケーブルテレビを呼んでおけばよかった」と思ったほどです。涙を流しながら式を見ることができた校長は幸せ者です。生徒たちに感謝ですね！！

エンブレムの発表も、実行委員の生徒たちは、担当の先生方と演出方法を練り、披露することができました。見事グランプリに輝いた作品は2年生の小笠原美月さんの作品で、来年度の制服から生徒たちの胸に付けられます。「男女分け隔てなく仲が良い」という作者の思いを今後も失うことなく、受け継いでいってほしいと願っています。

生徒代表のあいさつも素晴らしく、3年生のK.A.さんは「国際都市に学ぶ私たちは、いつの日か世界との懸け橋になればと思いますが、今一緒に生活している友達を一人の人間として大切にすること、理解しようとするのが、世界中の人々とつながっていくときの基礎になると信じ、これからも六本木中学校で過ごす一日一日を大切にしていきたい」と決意を述べてくれました。

六本木中学校は、30年目、40年目に向けて動き出しました。今後も変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。



校長式辞



本校は、平成 10 年に城南中学校と三河台中学校が統合して生まれた学校です。城南中学校の卒業生総数は 11546 人、三河台中学校の卒業生総数は 3793 人、合わせて 15339 人の先輩方のもとに生まれたこととなります。今でも、城南中学校、三河台中学校の卒業生の方々には温かく見守っていただき、感謝の気持ちでいっぱいです。

今、六本木中学校が建っているこの場所には城南中学校がありました。城南中学校は現在の駒場高校である府立第三高女の土地を引き継いでおり、その間、100 年以上もの間、六本木中学校のシンボルツリーである大銀杏はこの地で学ぶ学生の生活を見守ってくれています。

また、この式場に百人一首の看板を掲示しましたが、この看板は百人一首大会に合わせて生徒会が作成しています。この伝統は、三河台中学校から受け継いだものです。

このように六本木中学校は今年度開校 20 周年を迎えますが、城南中学校、三河台中学校を引き継いで今日を迎えているのです。

六本木中学校が開校しても、この校舎ができるまでの 2 年間は三河台校舎を借りて授業が行われていました。運動会は、スノーピーミュージアムとなっていた鳥居坂グラウンドで行われ、三河台校舎からリヤカーに椅子や必要な道具を乗せて六本木交差点を通して運んでいったそうです。

この校舎ができてからは、自主性をはぐくむという理念の下、教科教室型で設計された校舎で、ノーチャイムによる学校運営を行っていました。開校当時の生徒たちは自分で時計を見て時間を管理し、教科の教室に移動して授業を受けるということに誇りをもち、学校生活を送っていたと聞いています。

現在は、自主性を重んじるという精神を受け継ぎながらも、ホームルームを作り、学級を主体とした環境の中で教育活動を展開しています。

さて、現在の六本木中学校の生徒の皆さん、君たちの誇り・六本木中学校の良いところ何ですか？今年度になってから私は君たちに「六中プライド・六本木中学校の誇りを確認しよう」ということを投げかけてきました。自分なりの答えは見つかったでしょうか？

私は六本木中学校の良さは「**多様性を受け入れるところ**」だと考えています。

本校の教育目標の一つに「共生」という目標があります。文字通り、共に生きるということですが、そこには「**お互いの違いを認め、受け入れる**」ということがベースにあります。違いを排除するのではなく、受け入れることからスタートするこの伝統が、この六本木中学校に受け継がれており、私はそれが六本木中学校の「良さ・誇り」だと考えています。

このことが、君たちがよくいう「仲が良い」という言葉に置き換わっているのでしょうかね。これからも、六本木中学校としてこの良さを失うことなく発展させていきましょう。

結びに、在校生のみなさん、本校は地域に支えられ、地域とともにある学校です。開校 20 周年の節目に、本校の歴史と伝統をしっかりと受け止め、母校を愛する心、地域を愛する心確かものにしていきましょう。これからの六本木中学校の新たな歴史と伝統を創っていく主役はみなさんです。一人ひとりが本校生徒としての自覚をもち、気持ちを新たにしていってください。

我々教職員一同、この素晴らしい生徒たちとともに、30 年目、40 年目に向けてさらに発展させていくことをここに在る皆様にお約束し、私のあいさつといたします。

生徒代表の言葉



六本木中学校のシンボルともいえる銀杏の木が、もうすぐ色づき始めるであろうこの佳き日に、本校は開校 20 周年を迎えました。この晴れの日を、在校生として迎えられましたことを大変うれしく思います。在校生を代表して、現在の六本木中学校の様子と私たちの想いを述べさせていただきます。

六本木中学校生徒の在籍数は 183 名です。各学年 2 クラスに特別支援学級の 3 組を加えた 7 クラスで毎日学校生活を送っています。生徒数が少ないので、少々寂しく感じてしまうこともあります。しかし、その分先生方と生徒一人一人の距離が近く、そのことが六本木中学校特有のアットホームな雰囲気を作り出しているのだと思います。また、生徒同士もとても仲良く過ごしています。普段から先輩後輩関係なく接していますし、学校行事では全校生徒が一致団結して一生懸命取り組んでいます。

毎年 1 学期に行われる運動会の名物競技は、伝統のムカデ競争です。紅白対抗で、1 年生から 3 年生までが一本のたすきをつないでムカデ競争を行います。1 年生・2 年生から、中学校生活最後の運動会にかける 3 年生へたすきが渡され、3 年生は後輩たちの思いを胸にゴールを目指します。勝利のために、朝練や自主練などを行います。何回も転んで、あちこち傷だらけになりながらも一生懸命練習します。競技後は、勝っても涙、負けても涙。学年の枠を超え、生徒同士の仲がより一層深まります。そして今年も、開校 20 周年を記念して、初めて応援団が結成されました。生徒会の発案を校長先生をはじめとする先生方が受け入れてくださり、結成された応援団。はじめは恥ずかしがって声も動きも小さかった人たちも、練習を重ね、本番当日には全員で大きな声で元気よく応援合戦を行い、涙が出るくらいの感動を味わうことができました。

先月には合唱発表会がありました。クラスが競い合うコンクールではなく、コンサート形式で行われるのが本校の合唱の特徴です。隣のクラスより上手に歌おうとするのではなく、自分たちのベストの歌を披露する、それが本校の合唱発表会です。練習時間が限られている中、実行委員・指揮者・伴奏者・パートリーダーが中心となり、時間を惜しんで練習に取り組みました。当日は、学年ごとに自分たちのベストの歌を発表することができました。最後に全校生徒で歌ったときはとても気持ちよく、感動して鳥肌が立ったのを覚えています。その日の校長先生は「合唱発表会はみんなが幸せになれる行事だ」とおっしゃっていました。私もその通りだと思いました。今日この後、私たちの合唱を聴いていただきます。一生懸命歌いますので、どうぞお楽しみください。

私たちはまだまだ未熟です。時には先生方にご迷惑をおかけすることもあります。先生方は愛情をもって、時には厳しくしかり、時には優しく励ましてくださいます。そんな先生方に囲まれて、私たちは一歩ずつ一歩ずつ成長していきます。そしていつの日か、世のため人のために行動できる人になりたいと思います。その基礎となるのが、今六本木中学校で過ごしている時間なのだと思います。国際都市に学ぶ私たちは、いつの日か世界との懸け橋になればと思いますが、今一緒に生活している友達を一人の人間として大切にすること、理解しようとするのが、世界中の人々と繋がっていく時の基礎になると信じています。これからも六本木中学校で過ごす一日一日を大切にしていきたいと思っています。

私たちの大切な母校であるこの六本木中学校がこれからもずっとここにあり、ますます発展していくことをお祈りして、生徒代表の言葉といたします。

エンブレム コンテスト



エンブレムコンテストでみごとグランプリに輝いたのは 2 年生の M.O.さんの作品です。記念式典で発表されると会場からは大きな拍手が起こりました。

M.O.さんの受賞の言葉を掲載いたします。

グランプリを受賞することができてとても嬉しいです。このデザインが一番のポイントは、オリーブの葉でできた草飾りを青と赤に分け、交差させたところです。青と赤は六本木中学校の男女分け隔てなく仲が良いという特徴を表していて、それがこれから先も続くようにという願いを込めて描きました。

来年度入ってくる新入生がこのエンブレムを付けているところを想像するととても楽しみです。

ありがとうございました。

保護者の皆様の協力に感謝

保護者の皆様には、記念式典・祝う会に 40 名のお手伝いをいただきました。在籍数は 183 人です、とても多くの方々に手伝っていただいたこととなります。

記念式典の受付や接待では教育長をはじめ、区長や区の行政幹部の方々がお見えになったので、気を遣うことも多く、大変だったと思います。

また、祝う会においては、昼の待ち時間に多目的室においてドリンクを振る舞っていただいたり、受付担当の方にはお金を扱っていただき、ご苦労をおかけしました。

また、品物を供給してくださったお店の商品を配る方には、たくさんの商品を配っていただきました。お揃いのエプロンで、会を華やかにしてくださいました。

どの部署も、気を使うことが多くて大変だったと思いますが、祝う会にいらした方々は皆さん満足して下さっただけでなく、非常に多くの保護者の方々が手伝って下さっていたことに驚いていました。本当にありがとうございました。



生徒たちの立派な態度、保護者の方々の絶大な協力、地域や卒業生の方々の温かい支援、そして、我々教職員の強固な結束！

まさに「チーム六中」として取り組んだ、20 周年記念式典・祝う会となりました。

この会を通して育まれたチームの和を今後もさらに強靱なものにしていきたいと考えています。

この会に携わって下さったすべての皆様に感謝いたします。ありがとうございました！！

お詫びと訂正

学校だより 10 月号において、「校長室の教育目標は巻山先生の書である」と書きましたが、正確には 14 期卒業生の富田キアナさんの作品でした。ここにお詫びし、訂正いたします。申し訳ありませんでした。